

『古今著聞集』「小式部内侍が大江山の歌の事」に関する事項②

さて、前回「歌合」や「和歌」がどういうものだったのか簡単に説明しました。「歌合」のよみ手に選ばれ、歌を詠むということが「すごい！」ことだと何となく分かっていただけましたか？

ちなみにこの時「小式部内侍」は12～15歳ぐらいだったそうです。今の小6～中3ですね。

まず「何それ?! その子何者?」ってなりませんか?

そして、小式部内侍のお母さんが誰かという、それが……

和泉式部

「中古三十六歌仙」の一人にも選ばれた当代一流の女流歌人。さらには、藤原道長から「浮かれ女」と評された恋多き女性。二人の親王(天皇の息子)を始め多くの男性との浮名を流しました。ということは……それだけ美人であり、やっぱり和歌も上手い(前回でモテる女性の条件としてあげましたよね)ってことですよね。



ここで質問! 小式部内侍はそういう人の娘なんだということを知った上で、小式部内侍が「歌合」のよみ手に選ばれたということを聞いたら、皆さんはどんなことを考えますか? (ちなみに容姿もお母さん譲りの美人だったそうです)

え～!
母娘共に美人で歌が上手いの? すご～い。
うらやまし～い♡

いいよね～
色々恵まれてる人は……
親から才能とか受け継いでさ。

ホンマかいな～
ど～せ親のコネじゃないの?
コネコネ!

歌も親が作ってんちゃう?
それか、教えてもらってるんちゃうの?

小式部って噂によると美人らしいじゃん?
ちょっかいかけてやろうかな?



Aさん



Bさん



Cさん



Dさん



Eさん

……こんな感じですか? (これ以外に考えた人は、また個人的に教えてね。)



今回の話に出てきた「藤原定頼」さんの場合……

「小式部内侍」の部屋の前を通り過ぎる時に、部屋の内に向かって「丹後(小式部の母、和泉式部がいる)へやった使いは戻ってきているのか?」と話しかけていますね。
これは何が言いたいのか?
……「歌合せの歌について、母の和泉式部に代作 or 助言を求めるために丹後へやった使いは戻ってきてるのか?」(お母さんの助けがなくて困ってるんじゃないの～笑)

ってことです。

この時の定頼さんは上のA～Eさんのうち、どのパターンだったのでしょうか?

諸説ありますが、おそらくC、D、Eさんが混ざった感じだったのではないのでしょうか。

皆さんはどう考えますか?